

紹介

浮田典良著

『地図表現半世紀』

——私の描いた主題図126——

浮田典良・森 三紀著

『地図表現ガイドブック』

——主題図作成の原理と応用——

二〇〇四年一月、長らく地理学界をリードされてこられた浮田典良先生がご逝去された。あまりにも突然の死で周囲の誰もが驚きを隠せなかったし、今でもまだ信じたくない思いでいっぱいである。

浮田先生が晩年に精力的にまとめられたのがここで紹介する二冊の書である。まず、最後の著作となった『地図表現半世紀』を取りあげる。副題にもあるように、本書は浮田先生が長年にわたって描いてこられた主題図のうち、厳選された百二十六枚が集成された本である。

本書の魅力は二点ある。まず、第一章

「滋賀県の茶業」から第十三章「三田市史」ほか」を通覧することで、多様な主題図に触れることができるのみならず、浮田先生の研究の軌跡をも確認できる点である。浮田先生は本書作成を契機に病氣治療に専念するという意志であったようである。それがまさか最後の著作となるとは誰も予想していなかったであろうが、「現象を地図化する」ということ自体が研究の重要なプロセスであり、それによって新たな発見や、発想の展開が期待できる」(i頁)とされる先生が、研究活動の一つの区切りとして主題図の集成に取り組まれたのもごく自然なことであつたのであろう。これまでの業績を振り返った自叙伝としてふさわしい内容である。

もう一点は、単に百二十六枚の図を羅列し、紹介していったという体裁なのではなく、各主題図をご自身で批評している点である。とりわけ、研究活動を開始した頃に描かれた主題図(第一章・第二章)には、「あとから考えると、この図は町村ごとに矩形の記号を用いればよかった」(五頁)などと、かなり厳しい自己批判をされている。本書に掲載された主題図は、紹介者な

どがみるとすべて十分の出来なのだが、浮田先生ご自身による各図の批評を読むと、美しい主題図の作成がいかに難しく、また奥深いものであるかが分かる。

では、いかに主題図を作成していけばよいのだろうか。この点に解答を与えてくれるのが、『地図表現半世紀』の姉妹版と位置づけられている『地図表現ガイドブック』である。

本書は浮田先生と、地図編集制作の第一人者である森三紀先生の共著であり、同じく両者が執筆された『地図表現入門』(大明堂、一九八八)の改訂版にもあたる。前版も主題図作成の指南書として定評があつたが、本書ではその基本的骨子を継承すると同時に、時代の流れに併せ、Adobe社のIllustratorを用いた製図技術を紹介している(第十一章)。GISを用いたデジタル・マッピングに関する概説書はいくつかあるが、Illustratorを用いた本格的な地理学用製図指南書はこれが初めてである。パソコンの画面に現れるツールボックスやパレットについての説明もついており、Illustrator初心者にも理解できるよう配慮が施されている。

また、カラーページがふんだんに使われ、色によるイメージの違いや地図彩色の法則なども説明されている（第十章）。さらに、色覚障害者にも分かる地図表現について説明されるなど、これまで（残念ながら）考慮されることがほとんどなかった点にまで言及されている。もちろん、手描きによる製図方法も丁寧で分かりやすい説明があり、あらゆる主題図作成の際に役立つ内容を備えている。

さらに、銅版彫刻時代から現在のデジタル・マッピングにいたる地図原図作成の歴史が解説されており、地図作成の変遷も追えるようになっていく（十二章）。

ただ、そのような変遷にあつて、変わらないものもある。それは、主題図の「信頼性 science」と「明瞭性 art」である（五一―八頁）。この二点が揃ってはじめて主題図はその威力を発揮するのであり、それはどのような手段や道具で描かれようが、変わることはない点である。本書では、「信頼性」と「明瞭性」の追求こそ、主題図作成の極意であることがさまざまな場面で、陰に陽に語られている。

『地図表現ガイドブック』が主題図作成

に必要な「信頼性」と「明瞭性」を獲得するための技術的指導書であるとするならば、先の『地図表現半世紀』は、一研究者が兩者を獲得していく軌跡が綴られた書であり、実践的指導書と位置づけられるものである。この二冊を通読することで、主題図作成の基礎的知識はすべて身に付く。あとはペン（もしくはマウス）を持って練習あるのみである。

主題図作成の技術は、何も地理学者だけが必要な技術ではあるまい。どのような分野の研究者であれ、主題図を描く必要はあるであろう。その意味で、ここで取りあげた二冊の書は、あらゆる研究者にとつて必読の書として位置づけられるものである。とりわけ、主題図作成の経験の少ない初学者にとつては不可欠な書である。

浮田先生のご冥福をお祈りするとともに、先生が残された貴重な財産をぜひとも継承していきたい。

『地図表現半世紀』 B4判 一〇六頁

二〇〇五年三月 ナカニシヤ出版 二四〇〇円

『地図表現ガイドブック』 B4判 一三四頁

二〇〇四年七月 ナカニシヤ出版 二四〇〇円

（上杉和央 京都大学総合博物館）

『史林』投稿規定（二〇〇四年四月改定）

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

○論説 四百字詰 八十枚以内

○研究ノート 四百字詰 五十枚以内

○研究動向 四百字詰 八十枚以内

○書評 四百字詰 二十枚以内

○論文評 四百字詰 二十枚以内

○紹介 四百字詰 三枚程度

◇論説には「要約」（四百字以内）と「欧文要約」、研究ノートには「欧文要約」を添付のこと。

◇研究動向・書評・論文評には「欧文タイトル」のみ添付のこと。

◇注は各章末に入れること。

◇査読用に複本（原本からコピーしたもの）の一部を添付すること。

◇電子データがある場合は、下記「補足」の「電子データ添付要領」に従って添付すること。

◇図表が必要な場合は、下記「補足」の「図版作成要領」に従って作成、添付すること。

注意：特殊な図表を掲載したり、特殊活字